

令和5年度事業報告書

自 令和 5年4月 1日
至 令和 6年3月31日

公益財団法人 新田次郎記念会

令和5年度の要旨

当法人は、定款に書かれた「故新田次郎の日本文学に残した功績を広く後世に引き継ぐべく、人材発掘・啓蒙・普及等の活動を行い、我が国文化の発展に寄与する。」という目的を達成するため、毎年における新田次郎文学賞の授与と、機会を得るごとの新田次郎の文学的業績の啓発事業を行っている。当年の事業の状況と理事会等の開催状況は以下のとおりである。

事業の状況

〔文学賞事業〕

・第42回新田次郎文学賞

令和5年4月12日、理事会より委嘱された選考委員、阿刀田高、熊谷達也、澤田瞳子、諸田玲子により、実行委員会から推薦された候補作品を対象に選考委員会を開催、授賞作品を決定した。各理事に報告するとともに、マスコミ各社に通知し、当日の新聞社ネット配信、翌日の全国紙各紙に報じられた。

受賞作 梶よう子著『広重ぶるう』（新潮社刊）

授賞式・祝賀パーティーは、5月31日、KKRホテル東京にて開催した。コロナ禍で授賞式のなかった第39回の河崎秋子氏、第40回の永井紗耶子氏も招き、出席者110名余の盛況となった。

・第43回新田次郎文学賞

令和5年10月12日 理事会より委嘱された実行委員7名により実行委員会中間会合リモート開催、その時点までに刊行された作品について意見を交換し、第43回新田次郎文学賞の候補作を選定する準備を行った。

令和6年1月 新聞社学芸部・文化部、小説・文芸誌編集部、出版社文芸書出版部、作家、評論家、新田次郎文学賞過去受賞者、財団役員、その他、広く関係者約150名に新田次郎文学賞にふさわしい作品について推薦を求めるアンケートを発送・送信した。

令和6年2月5日、第1回実行委員会をzoomによりリモート開催、同3月5日、第2回実行委員会を新潮社会議室にて開催。中間会合以降に刊行された作品、中間会合で検討作品として残された作品、上記のアンケートによる回答作品、各実行委員の推薦作品などについて協議し、選考委員会に推薦する選考対象候補作品を決定、選考委員会に報告した。

〔啓発事業〕

今年度も新田次郎作品の復刊があった。1月『マカオ幻想』（小学館P+D BOOKS）が刊行された。各社で過去作品の電子書籍化が進んでいる。

理事会等の開催状況

令和5年5月16日 第35回理事会（みなし決議）

令和4年度事業報告書、計算書類の承認
定時評議員会の招集（定款に則り決議の省略をもって実施）
令和5年5月31日 第12回定時評議員会（KKRホテル東京）
令和4年度事業報告書、計算書類の承認、予算の報告
令和5年5月31日 第36回理事会（KKRホテル東京）
定期提出書類に記載の「運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類」の承認、執行状況の報告
令和6年2月22日 第37回理事会（KKRホテル東京）
令和6年度事業計画書案及び予算書案の承認、執行状況の報告

役員等に関する事項（令和6年3月31日現在）

理事長（代表理事）	藤原正彦	報酬なし
専務理事（執行理事）	諸田玲子	同
理事	阿刀田高	同
理事	佐藤隆信	同
理事	藤原広太郎	同
理事	村井潤一郎	同
理事	楠瀬啓之	同
理事	澤田瞳子	同
理事	吉川 潮	同
監事	井口一男	報酬なし
監事	檜屋光之	同
評議員	久米 勲	報酬なし
評議員	植松三十里	同
評議員	松本侑子	同
評議員	山崎光夫	同

以上

なお、重要な事項はすべて本報告にて記載したので付属明細書を作成していない。